

エンジンオイル



エンジンオイルは、車の血液です。
エンジンオイルは、車の心臓部であるエンジンの中で、
潤滑・冷却・密封・防塵防錆・洗浄
の役割を果たしています。

定期的なオイル交換を心がけましょう

！ エンジンオイルを交換しないと…



- 発進・加速がもたつく
- 坂道での伸びがない
- エンジンの音が気になる
- 燃料の消費が激しい
- パワーが不足していると感じる
- エンジンが重たく感じる
- 低速走行でエンジンが震える
- エンジンがかかりにくい
- オイルフィルターキャップ内に白いものがつく
- 白い色や青い色の排ガスが出る

3つ以上当てはまったらエンジンオイルを変えてみよう!

！ エンジンオイルで燃費が変わる！



このステッカーが張ってある車には低粘度オイルが必要です

最近のエンジンは**低燃費を実現**するために、エンジンオイルを従来よりも**粘度の低い**(抵抗の少ない)タイプを指定しています。

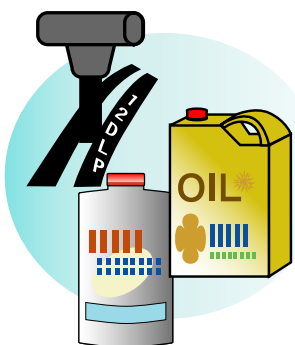
従来のエンジンオイルに比べオイルが**さらさら**しており、これがエンジン内の**抵抗を減らし、燃費に貢献**しています。

さらさらのオイルは以前は寒冷地等での特性オイルでしたが、APIのSL規格を合格したものは**オールシーズンタイプ**として利用できるようになりました。

環境対応のエンジンは**5W20**もしくは**0W20**のオイルを指定している車が**主流**です。もちろんAPIのSL規格に合格したものが安心です。

エンジンにあったオイルを選びましょう! 環境対応のエンジンオイルの優れた燃費性能で、地球温暖化の原因とされるCO2の排出量を抑えましょう

ギヤオイル・ATFオイル



トランスミッション、ディファレンシャル、トランスファーといったエンジンの力を伝える重要な役目を担った部分。ここに使用されるオイルのことを、一般にギヤオイルといいます。ギヤオイルは歯面に油膜や特殊な被膜をつくり、圧力や衝撃を和らげ、ギヤの磨耗と焼き付きを防ぎ、更に錆などから歯面を保護する働きをします。

ATFオイルは、動力を伝達し、スムーズなシフトを行い、ギヤ、クラッチプレート、ベアリングの潤滑と摩耗を防止します。また、ATユニットを冷却し、スラッジの発生を防止したり、発生したスラッジやワニスの清浄と分散を行います。油圧作動でATユニットを制御し、AT部分への錆、腐食の防止、ギヤ鳴りを防ぎ、燃費を向上させる働きがあります。